

匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業

令和3年度 第1回 飯倉駅前地区まちづくり専門部会

議事録

日時 (協議期間)	【書面開催】※新型コロナウイルス感染防止対策として ・協議期間 令和3年8月23日(月)～同3年9月6日(月)	
出席者	■専門部会委員 井上 峰夫 社会福祉法人九十九里ホーム理事長 加瀬 功一 匝瑳市ボランティア連絡協議会長 眞田 心哉 千葉興業銀行営業支援部長代理 代理回答 斎田 忠 千葉興業銀行八日市場支店長 松本 理 元豊栄地区区長会長 鈴木 勝也 株式会社ベネフィット代表取締役 大久保 彰彦 八日市場青年会議所社会開発委員会担当副理事長 近藤 剛志 そうさ音楽教室代表 ■事務局 社会福祉法人九十九里ホーム 江波戸 美代 専務理事 鈴木 敦子 事務長 庄村 秀泰 コーディネーター 特定非営利活動法人元気な日本をつくる会 武藤 克哉 組織運営本部事務局長	
議事録	事務局	1 書面開催について (1) 新型コロナウイルス感染防止対策として協議会・専門部会を書面開催に変更し、各委員へ資料を事前交付 (2) 意見票は、9月6日(月)までの投函を依頼
	事務局	2 書面对応(配布書面内容) (1) 本年度、協議会/専門部会について

		<p>①スケジュール ②講演会概要（プログラム内容・講演者等） ③委員会メンバー</p> <p>(2) 匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業について</p> <p>①事業概要、工事進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス付き高齢者向け住宅「聖アンナ館」 ・地域交流センター「ナザレの里」 <p>②平成28年度～令和2年度取組みについて</p> <p>③令和3年度の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住、定住へのPR手法 <ul style="list-style-type: none"> —PRパンフレットの配布 —PR動画の活用 ・地域交流センターの活用 <ul style="list-style-type: none"> —生涯学習施設の具体的運営方法の検討 —農産物直売所の運営検討 —移住者等に対する支援プログラム
	<p>【意見票】</p> <p>A 委員</p>	<p>匝瑳市の希望の星 CCRCを成功させよう！！</p> <p>匝瑳市はPRがヘタです。ヘタと言うより、PRをしていないと同じなのでPRになっていないのです。</p> <p>より効率よくPRするのはコツがあります。それにはマスコミに取り上げられることが必要です。どうしたらマスコミが取材に来るでしょうか。それを考えられればPRは成功します。</p> <p>①社会性があること（社会環境）。 ②タイムリーであること。 ③ニュース性があること。</p> <p>以上の3つを押さえることが必要です。</p> <p>以上のことを踏まえて飯倉駅前CCRCを見ると、たくさん素材があります。それをどのように提示するかで勝負が決まります。さあ魅力ある話題を創りましょう！！</p> <p>・農福連携・農産物直売所・障がい者雇用・地産地消・生涯学習・農地の有効利用・移住者と協働(プロボノ)・お試し居住・地域食堂 etc</p> <p>実に様々な魅力的施設が揃っています。これをどのように付加価値をつけてリリースするかが勝負です。</p>

	<p>B 委員</p>	<p>飯倉駅前地区まちづくり交流ゾーンを活性化するために、飯倉駅の魅力を考えたので、下記を意見させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道 126 号バイパスに近く、国道からロータリーへの導線が良い点 ・飯倉台から飯倉駅方面になだらかなひな壇の下り坂でメインストリートが整備されており、かつホームは島式ではなく単一であり、飯倉台方面に駅から行くには橋を渡らず、フラットアプローチとなっている。 <p>電車を降りてそのままバリアフリーで車いすや、自転車の乗り降りでき、他の総武本線の駅より利便性が高い。現状のままで今後エスカレーター等の設備投資は不要な状態。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九十九里ホーム様の介護、医療施設が駅を囲むように建設されて駅と飯倉台のまちと一体化しており、健康増進、病気予防、手当、子育てとのシナジー効果がある。 ・太平洋が近く、サーフィン、サイクリングなどサークル活動可能。 ・八日市場中心部、飯高地区など観光資源が豊富。 ・お客様が利用しやすいとてもコンパクトな駅となっており中核である八日市場駅を補完し匝瑳市の第二の拠点となっている。 <p>以上の飯倉駅の魅力を極大化すべく、各団体、匝瑳市とコラボレーションし発信していくことにより、飯倉駅前地区まちづくり交流ゾーンを活性化させていきたいと思います。</p>
	<p>C 委員</p>	<p>全体的な内容について特段意見はございませんが、現在の方向性を踏まえた上での細かな部分について意見を記載させていただきます。</p> <p>3- (3) PR 方法について</p> <p>コロナ禍ということもあり、既存の広報手法だけでは十分な効果を得ることは難しいと考えます。一般的な広報反応率のボーダーラインと言われる 3% を超えるためには、ペルソナ設定に適した手法を柔軟に取り入れていく必要があると思います。</p> <p>3- (3) 地域交流センターの活用について</p> <p>地域の方々へ向けた機能やイベントを行うと同時に都内などの市外居住者向けの催しを定期的に行うことで認知度の相乗効果を生むきっかけになると感じました。</p>
	<p>D 委員</p>	<p>「地域交流センターの活用について」述べます。様々な世代の市民を来館しやすくするには、来館する目的が必要だと考えます。来館したことによって、</p>

	<p>井上峰夫 会長</p>	<p>結果的に多世代交流が出来ていたという形がベストであって、最初から「多世代交流スペースですよ」と言っても人は、特に若い世代は集まらないでしょう。</p> <p>市が、まちが、地域を元気にするのは、女性。特に若い世代、子育て世代の女性が今後の衰退していく地域を救うカギとなります。</p> <p>つまり、この地域交流センターには、10代～40代の女性が来館したくなる仕掛けが必要と考えます。</p> <p>具体的に真っ先に思いつくのは「カフェ」です。</p> <p>小さなスペースでちまちまやるのではなく、館全体を大きなカフェスペースに見たて、それぞれ好きな席に付く。</p> <p>公共施設にありがちな整然とした配置にするのでは無く、机も椅子も、バラバラに無秩序に配置するのが好ましいと考えます。これには今後もしばらく続くであろう、感染対策にも繋がります。本来の目的は、女性が1人で来館出来る雰囲気作りです。</p> <p>メニューの開発も非常に重要です。</p> <p>看板となるスイーツメニューとランチメニューは必須と考えます。女性が、また来館したくなるメニュー開発を研究するべきと考えます。</p> <p>飲み物に関しては、個人的には匠瑤市亀崎の「ドゥ・ムートン」の豆を使った珈琲をおすすめします。スタッフとなる人の、努力が必要となりますが、持続して施設を多世代に利用してもらうには、私の「施設のカフェ化構想」は有効だと考えます。しかし、構想を実現するには、女性、特に若い女性の意見が必須です。常々思っておりましたが、この「まちづくり協議会」のメンバーに、女性がいないのは非常に残念ですし、問題です。女性にとって住みやすいまちづくりこそが地域の活性化につながります。その話し合いを男性のみで行っても何の意味も無いものと考えております。各世代の女性メンバー3～4名は入れてください。</p> <p>貴重なご意見をありがとうございました。 皆様から寄せられたご意見、ご感想を参考にしながら、今後の運営について考えていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。</p>
--	--------------------	---